

月曜 スマイル

火曜 老舗探訪

水曜 達人

木曜 メディカル

金曜 東海の同窓会

土曜 クリエイティブライフ

食品包装機器メーカーのパイオニア、朝日産業(本社名古屋熱田区四番)は、1949年(昭和24年)の創業以来、食品包装業界に革新をもたらした真空パック器「吸太郎」をはじめとする独自商品を開発、常に新たな市場を切り開いてきた。その源は、戦後間もない時期に紡績機で多く用いられていた焼玉エンジン。高度成長期には電撃殺虫器のヒットで業容を拡大した。顧客のニーズに沿った新商品を提案することで、海外にも拠点を置くグローバル企業として存在感を発揮し続けている。

名古屋市

創業者の辻本利雄氏は、現社長の辻本正人氏の義父にあたる。第2次世界大戦時に旧陸軍の技術下士官として自動車部隊に配属。戦地で運転も担当した経験やノウハウを生かし、戦後、共同経営者と大阪府岸和田市で「朝日産業社」を立ち上げた。

本社があった泉南地区は一大繊維産地として知られた地域。紡績機向けの焼玉エンジンは簡易な構造で製造コストが安いため、業界では必需品だった。

1949年創業 朝日産業

創業当時はエンジン修理で事業の基礎を築いた。その後、紡績系に燃(よ)りをかける際に必要なローラーを保護する牛皮をはじめ、紡績関連商品を供給することで事業を拡大した。

そうした中、尾州産地をはじめ繊維産業が栄えていた中部地方は魅力的な

食品包装業界に革新をもたらした真空パック器「吸太郎」(右)。市販の真空包装袋が使える

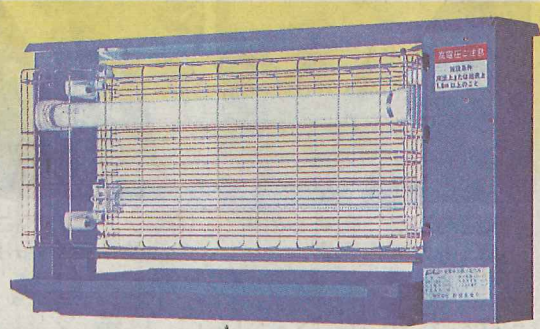


1台5万円といわれた同器だったが飛ぶように売れた。高度経済成長期で、スーパーマーケットがまだ普及する以前の時代。「小売店は当時、はえ取り紙をぶら下げており、電気で簡単に殺虫できる装置が市場にマッチした」(辻本社長)。ピーク時には年間2万5千台も売れた。

電撃殺虫器が大ヒット 食品包装業界にも革命

市場に映った。54年に名古屋市中区に3人で「名古屋営業所」を開設。56年にはスタッフも15人に増やし「名古屋事業部」に昇格させ、現在の同社の源流となっている。

66年に岐阜県の企業が製造する計量秤(はかり)の販売に着手した同社は、ここで大きな転機を迎える。当時、アメリカで開発され、日本の大手化学メーカーが販売していた電撃殺虫器を68年から取り扱うことになる。



爆発的にヒットした電撃殺虫器

1949年 9月	紡績部品の製造・販売業として創業
1954年 11月	名古屋営業所を開設
1956年 3月	名古屋営業所を事業部に昇格
1968年 3月	電撃殺虫器発売
1978年 5月	名古屋事業所が朝日産業として独立
1997年 3月	超音波溶着器ポイントⅢ発売
2010年 10月	台湾朝日中部有限公司設立 朝日グループ6社 資本金1億2000万円、従業員120人
2011年 2月	真空パック器「吸太郎」発売
2013年 7月	名古屋熱田区四番に本社を移転
2014年 11月	医療機器事業部を新設

朝日産業の歩み

海外に拠点、グローバル企業へ

減少した。そこで同社は、独自ブランド「アスパルブランド」を立ち上げ、包装機器、衛生環境機器を次々に市場に投入していく。

同ブランド商品は今や15アイテムに拡大。その中、2011年に発売し、食品包装業界に衝撃を与えたともいわれる吸太郎は、従来、業界で標準となっていたパック器と比べ格段に安価なこと、優位に立ち、市場を席巻している。また、家庭向けに開発したパック器は使用する袋が汎用的に使い、トータルコストを抑えられる。その利点が認められ需要を広げている。

辻本社長が2代目としてバトンを引き継いだのは、バブル経済が始まる前の1985年。就任後、海外でインドネシアに製造加工拠点、台湾に部品調達および販売拠点を整備した。

2013年には新本社が完成。地下鉄・六番町駅前にショールームも備えたデザイン性の高いビルは、新たな時代に挑む同社の象徴。昨年11月にはヘルスケア分野の開拓として、医療機器事業部を新設した。常に時代のニーズを先取りした商品を開発することで、さらなる創造を続けていく。

アイデアを持ち寄って

2代目・辻本正人さん



創業してしばらくしてから東海地方に商圏を定めた。電撃殺虫器や真空パック器、高齢時代を見据えたヘルスケア分野を切り開くため男性用収尿器など、時代のニーズに合致した商品を提案し、差別化を続けてきた。

ビジョンとして「100年、100億円、100カ国」という目標を掲げている。アスパルブランドも「明日」と仲間たち(PAL)の造語で15アイテムを世に送り出した。今後もそれぞれにアイデアを持ち寄り、これまでに築き上げたブランドを海外にも広げていきたい。



275